

災害調査 岩手県西和賀町雪崩調査 (2020.12.25)

研究代表	雪氷防災：荒川逸人	実施期間	令和2年度
研究参加者	雪氷防災：安達聖		

[目的]

2020年12月24日18:00頃より国道107号では雪崩の発生のため、北上市和賀町川目一和賀群西和賀町川尻間20kmで一時通行止めとなった。この雪崩による人身および物損被害、孤立集落はなかった。本調査の目的は、現場の積雪が時間とともに変質する前に雪崩調査を行い、雪崩の発生原因を明らかにすることにより、今後の雪崩災害防止に資することである。

[実施内容]

国土交通省東北地方整備局、岩手県県土整備部、岩手県県南部広域振興局との現地調査を行った。調査実施日は2020年12月25日、調査箇所は岩手県和賀郡西和賀町（国道107号）（図1）。

[成果と効果]

道路上におけるデブリは幅30m、高さ3m程度であった。雪崩斜面はほぼ等斉斜面だが、走路は沢地形だった。道路際には樹木があり、認識しにくかった。デブリは道路の法下約80mまでに達しており、土砂や樹木を含んでいた（図2）。UAV撮影により、雪面が剥がれ地表が露出されたとみられる場所があり、発生区であると推測した。

道路の法下付近のやや平坦な箇所では積雪断面観測を実施した。積雪深は73cmで全体的にざらめ雪層で、雪温はほぼ0°Cで湿雪であった。以上から発生した雪崩は面発生湿雪全層雪崩と判断した。岩手県湯田アメダスによると、12月20日までに160cmを超える積雪となっていたが、23日からの気温上昇および降水によって積雪深が急激に減っていることから融雪の促進が推測された（図3）。これが全層雪崩の発生原因になったと考えられる。

[行政機関等への貢献]

雪崩発生状況について東北地方整備局から情報をいただいた。今回の現地調査に伴い、今後の対策についてのアドバイスをを行った。12月25日18時には片側交互通行となり通行止めは解除された。



図1 雪崩発生地点（赤丸印）



図2 デブリの状況

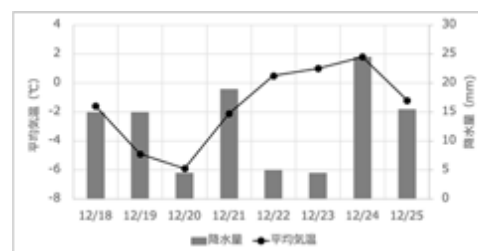
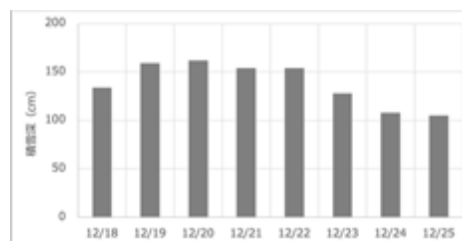


図3 湯田アメダス気象経過図